

B-50 被服構成の人間工学的研究 (第2報)
—実験用スカートによる布の伸長度分
布について—

三重短大 大富千恵子
橋本貴美子
金蘭短大 松下 知子

1. 本研究は、1報タイトスカートの採寸において胴囲から腰囲の位置までは姿勢をかえても寸法的に殆んど影響をうけないことを知ったので、今回は実験用スカートを作製して布の部位的伸長度を人間工学的立場から観察し、タイトスカート構成上の諸問題を解決する手がかりを得たいと考えた。

2. 方法としてスパンデックス入りの綿メリヤス地にマジックインキで4cmの方眼を書き入れ、これでたて・よこ2種の地の目方向のスカートを作った。被験者を回転台にのせ、静止の姿勢と左足を階段上にあげた姿勢の二通りについて、16方向から写真撮影し、たて伸び・よこ伸びを方眼毎にライトルーペで測定して伸び率を算出した。次に伸び率を10%刻み5段階の区分をつけて伸び

率の分布図をかき、等伸長率線をかいて観察した。またプリーツをつけて裨幅を広くした場合についても同様の観察を行ない、両者の比較をした。

3. その結果、よこ伸びの最もはなはだしい部位は前面では右足から左足にかけて膝関節から上の部位で、伸び率は約70%から40%前後、後面では右膝関節の後から右横にかけての約30%から20%前後で、腰より上の部位には殆んど大きな伸びはみられなかった。たて伸びはよこ伸びに比しその率は小さく、よこ伸びのはなはだしい部位に一のたて伸びがみられる。共に伸びている部位は前後とも膝関節の高さの両足間である。このことからプリーツの高さを決め同様の実験をしたことを報告する。